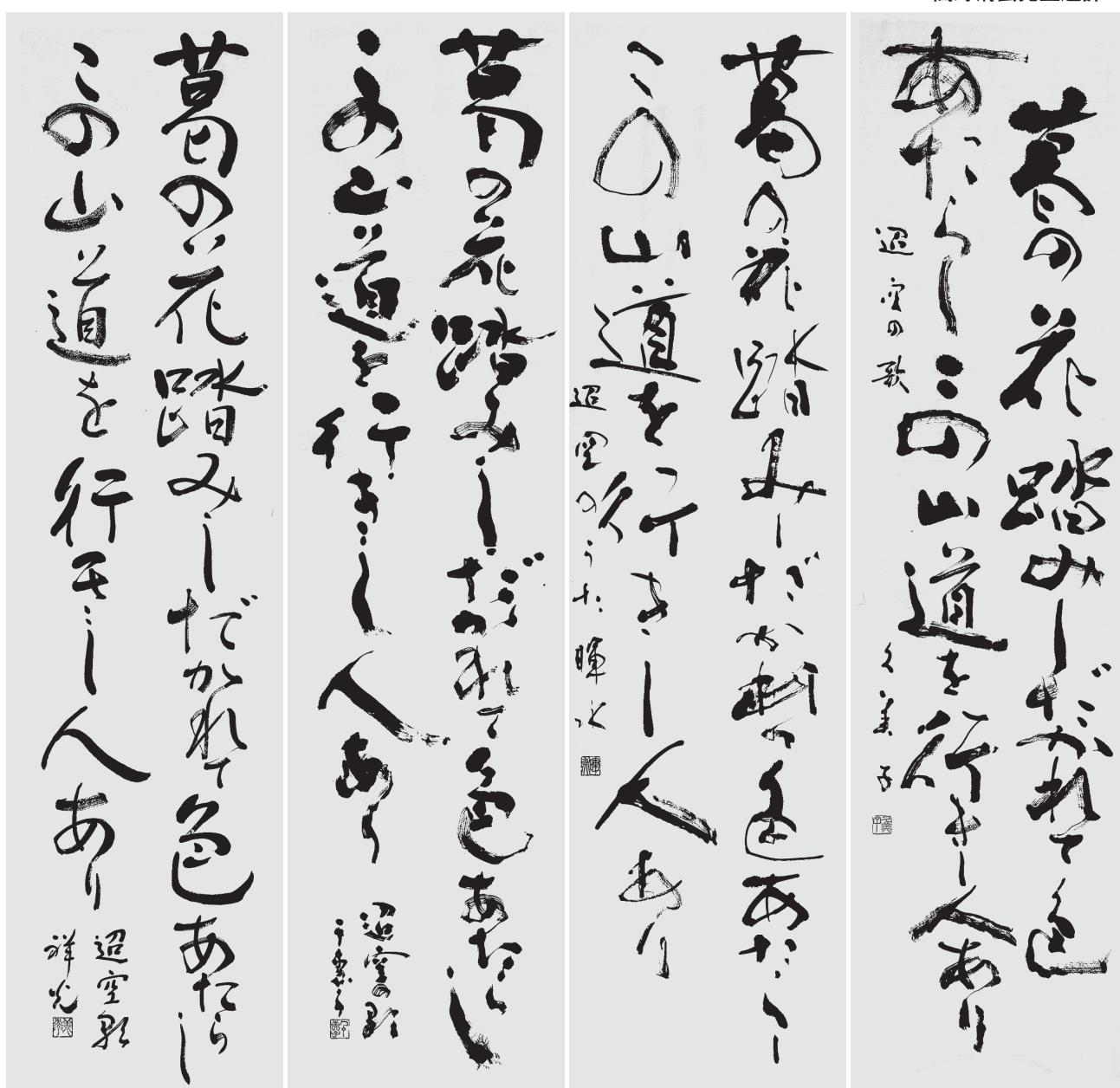


高野清玄先生選評



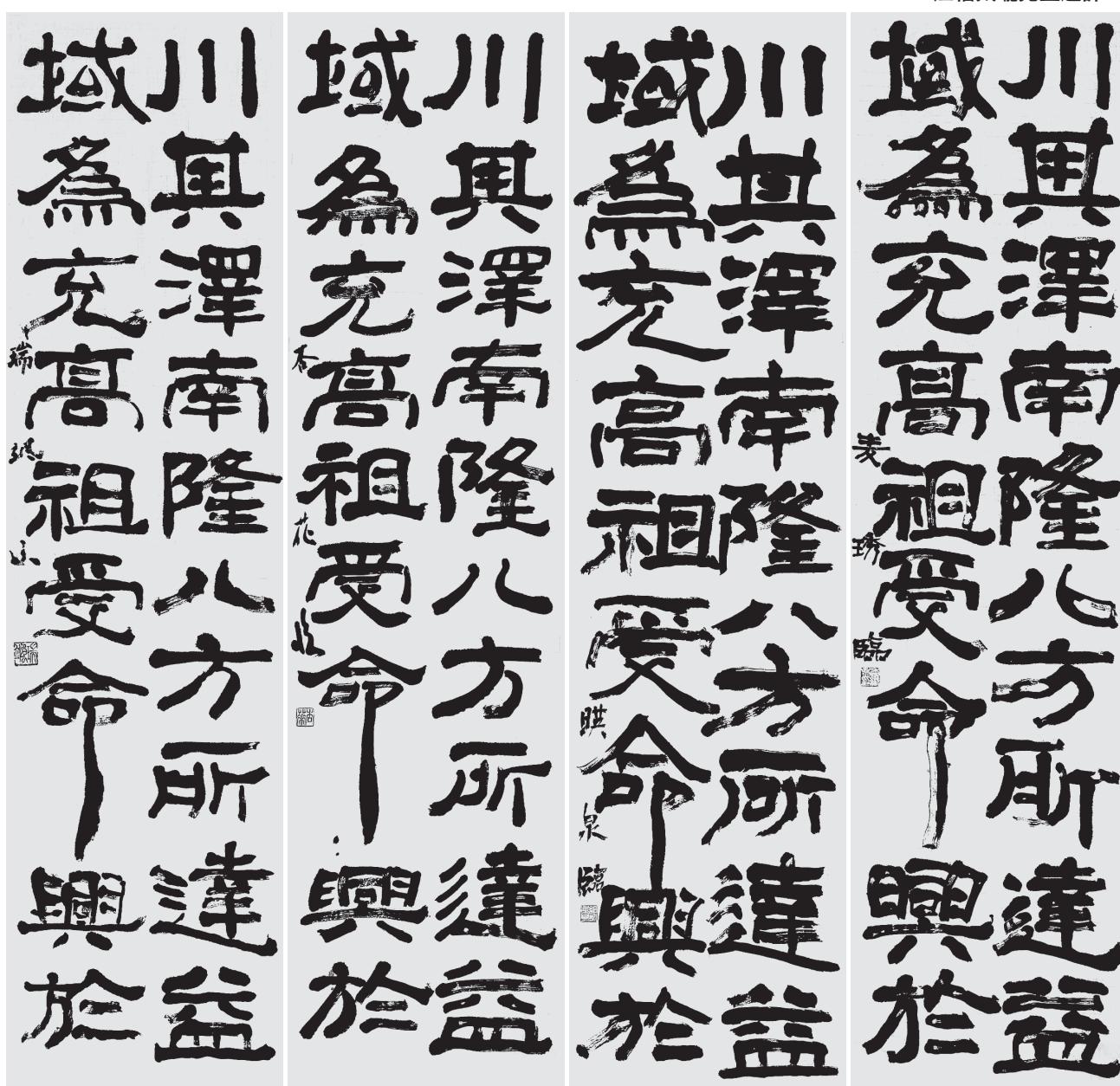
木村祥光 推選
金子鷗亭先生の参考作品を
よく観察し理解して表現さ
れて佳。細めの線で大胆な
変化のない書風は難しいが
軽いリズムに乗り爽やか。
落款の行間やや広過ぎた。

桑子暉永 推選
筆毛はやや開かれた状態で
の線が温もりを感じさせる
表現となり、なんとなくホ
ットさせる雰囲気を醸し出
している。二行目の行頭は
墨継ぎせず渴筆で書きたい。

熊本千恵子 推選
紙面の白が生かされ作品が
明るい。力む事なく筆毛の
弾力が上手く使われて細線
が良い。急がず一字一字の
空間を考えて配置配字され
た紙面構成も見事である。

久美子前 推選
運筆にやや迷々しさがある
ものの素材を参考と違つた
所で切り二行目に「あたら
し」を大胆な渴筆で置いて
これが成功した。「葛」や
「山」の潤筆が活きている。

江幡太璫先生選評



丸山瑞颯 推選
握りの構え角度良く大きく
ゆったりとし、懷が広く白
が美しい。二行目の様な潤
がかな。一般的に三~四字で
渴筆。行の字数で変わりま
すが。

安川杏花 推選
やや細く、中心部寂しくな
つたが、上部、下部の充実
落ち着きがあり深い線見事
です。画数の少ない字は大き
くしないで太くするのが基
本でしようか。

細永暎泉 推選
滲みのせいか重なった線あ
るもの呼吸深く長く、懷
広く味わい深い作品となり
ました。残念なのは落款低
すぎましたね。「高祖」の
間からでしょうね。

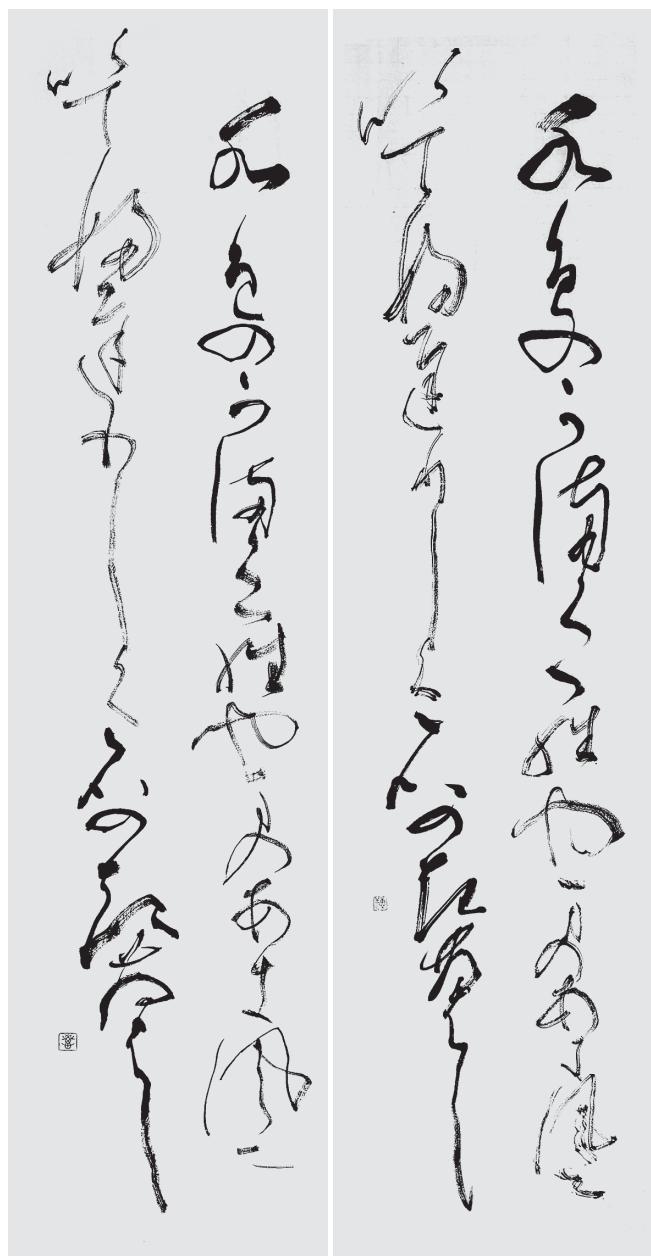
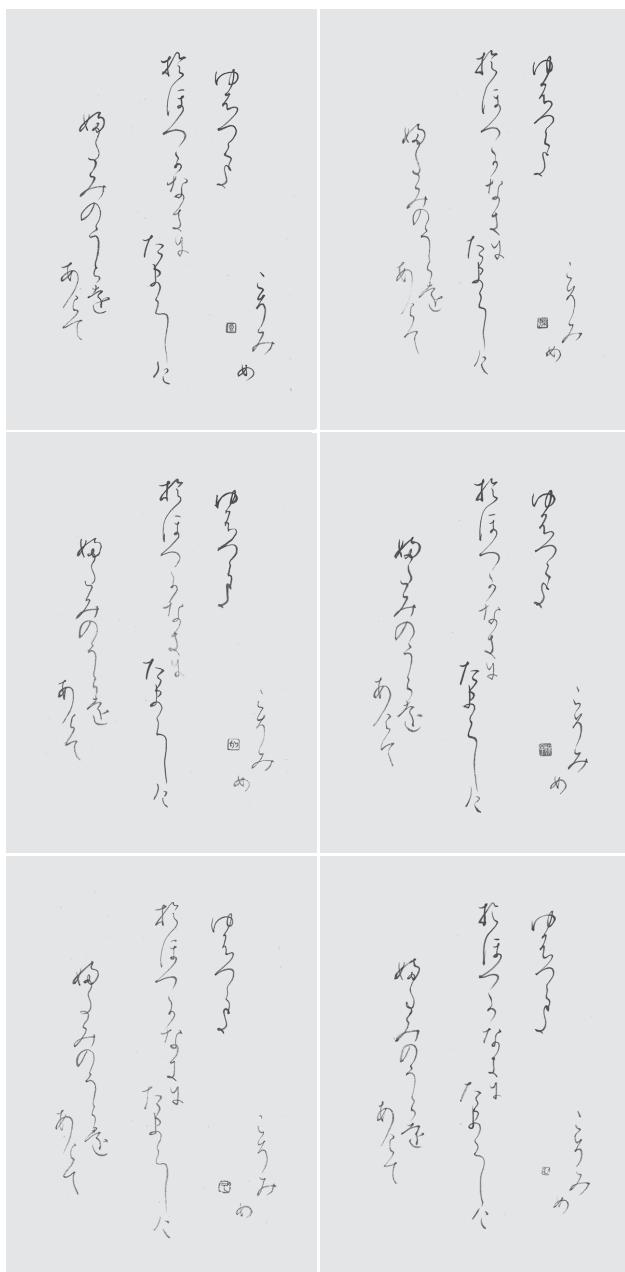
鯨井麦琇 推選
程良い墨量太さ、特に「八
方」の渴筆が際立つ。氣宇
の充実メリハリ抜群だ。香
織改め麦琇会山先生につけ
て頂いたとか良かったね。
ビール大好きな麦琇さんに
心より乾杯!

かな条幅・かな半紙最優秀作品

(9月15日締切分)

露崎桂子先生選評

赤富士北祭先生選評



今井良子 八段
大らかな運筆で、書くことの楽しさが伝わってくる作品です。行の方向に留意して、行にゆらぎが出ると、一段上の作となるでしょう。

栗本薰 準七
規定手本をよく捉えています。字形も美しく、ちらしも見事ですので、もつと自信を持つて運筆しましょう。印はやや離すと落ちつきます。

根岸久美子 五段
すつきりとした爽やかな線条です。気持ち良く筆が動いていますが、更に墨継ぎに工夫が見られると、印象深い作品になるでしょう。

仲山栄子 師範
字形、連綿の巧妙さを良く捉え、原帖の格調の高さを感じられます。ちらしも紙面にぴったりとはまり、いつまでも見ていたい作です。

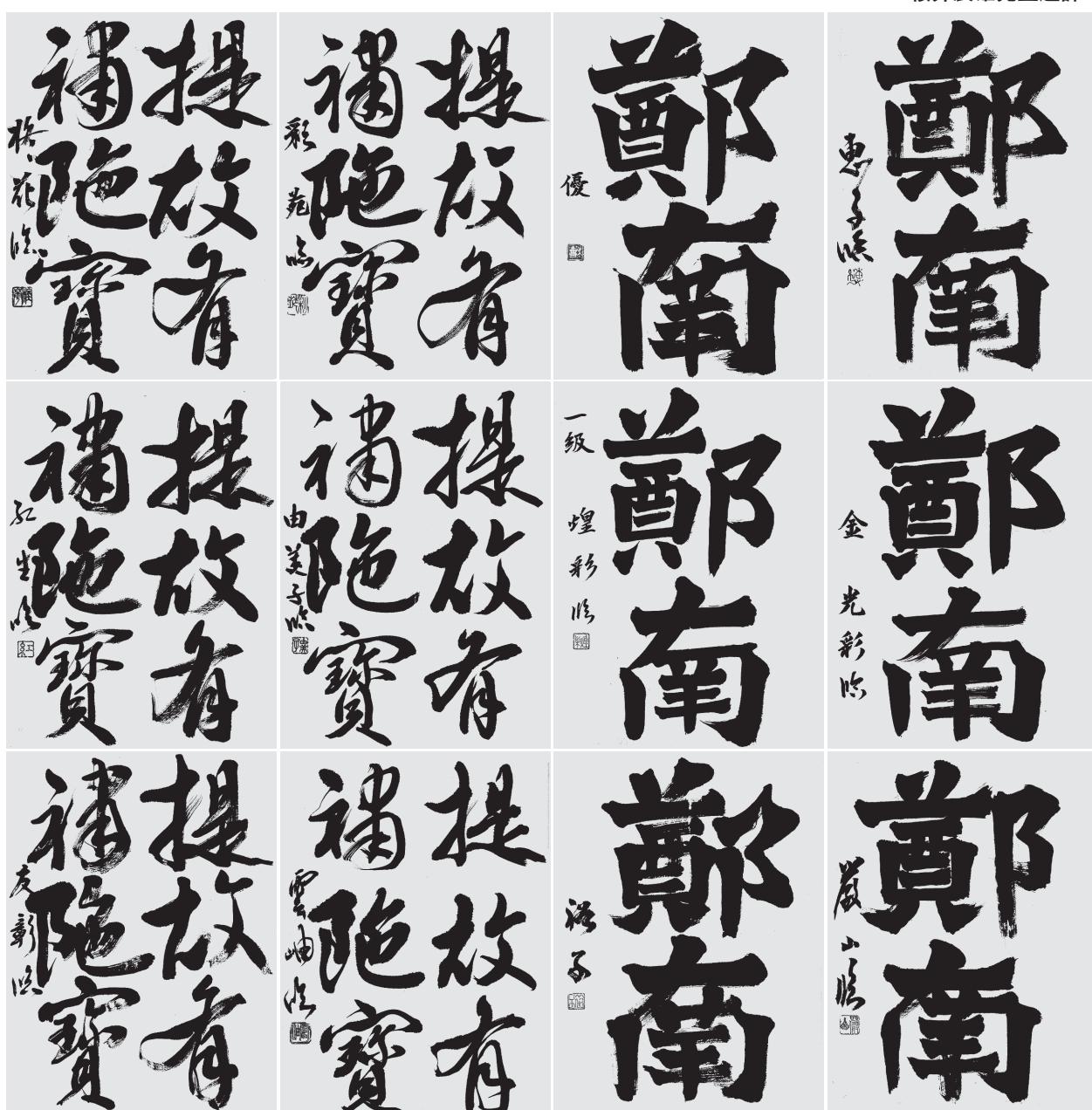
宮内悦子 師範
原帖の特徴を良く捉え、潤渴の変化が自然で美しい作。

福井むつみ 準師
字形良く、筆が良くな動き、勢いのある作です。緩急のリズムを取り入れて、原帖の美しい潤渴の変化が出ると更に趣きある作になるでしょう。

金子惠 惠
静かな書き出しから次第に盛り上がり、かな条幅の定石をしつかりおさえていました。二行の響きあいも見事で余白も含めて美しい作品に仕上りました。

木口恵美子 推選
おおらかな筆運びでゆったりとした時間の流れが魅力的です。筆の開閉も自然で、やや墨をひく用紙の選択もよく、深い線の味わいを表現しています。

桜井辰雄先生選評



松原格花
真摯に法帖に向き合
い、たっぷりとした
肉厚の線が躍動的な
作品にした。沈み込
む線質だが重さを感
じさせないのは、速
度を交えた運筆と効
果的な渴筆での表現
を演出できる技術力。

豊田彩澤
筆の握りも柔らかく、
筆者本人が再現した
作かと思わせるほど、
細かな筆の動きも無
理なく美しく表現さ
れた秀抜作品。露鋒
が邪魔をしていない
のは、墨・筆・紙を
熟知した賜物か。

熊澤 優
多少の迷い線・躊躇
したような運筆が散
見され、粗削りとも
見えるが、内に留ま
らない伸びやかな線
が随所に見られ作品
を大きく見せている。
今後の学書の成果が
期待される。

堀井恵子 師範
規定手本を参考にし
ながらも原帖から特
徴を捉え直し、鍛え
られた線質で起筆か
ら收筆、落款まで、
緊張感を含ませなが
ら白と黒のバランス
を生かし切っている。
遊び心も加え秀抜。

桜庭紅生 準三
運腕大きく縦横に伸
び伸びと筆が運ばれ、
紙面をはみ出さんば
かりの勢いを見せる
一方で、どつしりと
重心低く腰の据わつ
た字形が作品作りの
上手さ、描るぎ無さ
を見せてくる秀作。

中村由美子 八段
直線の効いた滑らか
な運筆がスッキリとし
た灑々しさを一つひ
とつの文字に漂わせ
ている。肉厚だが軽
やかな潤筆の偏が適
度に配置され、作品
のアクセントとして
引き立たせている。

杉浦愬影 一級
他の「造像記」臨書
作品とは違った捉え
方とも感じるが、素
直な暖かい線質が細
かな部分にまで行き
届き、規定手本に自
身の解釈を加え端正
で上品な秀作。落款
にひと工夫したい。

金 光彩 四段
柔らかめの筆を無理
なく巧みに使いこな
し、密度のある造形
に隸意を含ませて重
量感のある作品に仕
上げた。軽快な運筆
や転折にも工夫の跡
も見られ正に鄭長猷
の像記然とした秀作。

山崎友彰 一級
大柄な字形を縦長に
揃えつつ、原帖から
滲み出でてきた曲線の
香りを巧みに直線に
纏わせながら、隣接
して字形を微調整する
など、心憎いほど作
品作りに長けている。

内山雲岫 準八
紙面の定位位置を崩さ
ずにコンパクトに収
めたが、各々の文字
に窮屈さや小ささを
感じさせない。否
躍動感・懐の大きさ
をも感じさせる表現
は流石に学書に長け
た上級者の臨書力。

長野巣山 二段
グイグイと淀みなく
紙背どころか岩をも
穿つ筆致でありながら、重さを感じさせ
ない軽快な書線が紙
面を躍動して背筋の
伸びた凛々しい作品
だ。日頃からの学書の
成果が逛っている。